



PM 3:00

中大で日本初の「女装講師」がドツキリ初講義！

教壇に立ったのは妻子ある「女装家」の三橋順子さん。T・G（性の越境者）の視点から熱弁を…

20歳のころ、内なる「女性」に気づき、そのもう一人の自分に「順子」と名づけたという三橋さん。女装家である。その三橋さんが中央大学文学部社会学科の兼任講師（現代社会研究）に迎えられ、21日に初講義をおこなった。

三橋さんが、女装を始めたのはなんと結婚がきっかけだったという。結婚すれば一生、男で生きていかなければならないわけですよ。その前に一度だけ順子を表に出してみようと。で、通販で買ったワンピースを着てカッパをつけ、初めての化粧をして、最初で最後の思い出に記念写真を撮ったんです。

が、「順子」の姿が思ったよりイケてたことで女装の世界にどつぶり。その世界のミスコンで2年連続最多投票賞を頂きましたし、まわりの評価が高かったのよけい、その気になって…。もっとも、結婚生活では男の子の父親になり、週5日は男として某私立大学やカルチャーセンターの講師をこなす、女性に変わるのには2日間だけとか。男としての仕事のかたわら6年間、新宿の女装系スナックでのホステス業を続けていたが、転機は中央大学の矢島正見教授と出会ったことで訪れた。

ゲイとレスビアンの聞き取り調査に取



講義を前に研究室で念入りに化粧を直す三橋さん。

り組んでいた矢島教授が、性同一性障害の研究のため三橋さんにコンタクトを取ってきたのである。それから共同研究として、戦後の女装の社会を生きて

きた人たちに話を聞きはじめたんです。以来、三橋さんの仕事の評価はうなぎ登りとなり、講演や座談会でも発言。昨年には「戦後日本トランスジェンダー社会史研究会」を結成して、10月に日本社会学会大会シンポジウムで研究発表をおこなうまでになった。ちなみに、トランスジェンダーとは、生まれつきの性とは逆の社会的性を生きようとする「性の越境者」の意である。

三橋さんが中大講師に任命されたのは今年4月。しかも、三橋順子としての採用である。履歴書は詐称できないですからね。三橋順子と書いたうしろにカッパして本名をつけ加えました。しかし、私を採用してくれた中央大学はホント、えらいと思いますよ。矢島先生にも大学にも感謝です。

あいにく、ワードローブはお水系一色。で、初講義に備えジャケットを購入したのだが、「イメクラの先生ブレイみたい、と知り合いから言われてしまつて。結局、お水系のHっぽい服で講義に臨みました。さて、人間の性の大切さを説く「性を考える」と題した講義は、学生たちにはどう映ったのか。「ほかの教授よりも自分の意見を持っていた、これからは楽しみ」「聞きやすい内容で面白かった」と上々の評価である。むしろ、順子先生も意欲満々。「女としての自分が世の中に必要とされているのなら、できるところまでやるしかない。中央大学での講義はこの後期12回で終わりますが、もっといろんな大学でたくさんの学生に話をしたいですね。水を得た魚状態の三橋さん、熱っぽい（色っぽい？）講義に人気集中の気配ではある。



中大多摩校舎の教室には、約100人の学生が詰めかけた。「思った以上に学生がマジメでホッとしました」（三橋さん）